

ちばけん

障害者社会参加推進センターだより

発行・編集 千葉県障害者社会参加推進センター

第31号

〒260-0026 千葉市中央区千葉港4-5 千葉県身体障害者福祉協会内
TEL 043-245-1571・FAX 043-245-1578 E-mail: bcg03245@nifty.com
http://chibashinsyoukyou.style.coocan.jp/

令和6年度「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」入賞者

千葉県が募集した、障害のある人となない人との心のふれあいの体験をつづった「心の輪を広げる体験作文」と、障害のある人に対する国民の理解を広げるための「障害者週間のポスター」の入賞者が、第56回千葉県身体障害者福祉大会で表彰されました。

○千葉県知事賞

「心の輪を広げる体験作文」

最優秀

小学生区分 真田 柊摩（筑波大学附属聴覚特別支援学校小学部3年）
「おどろきとうれしさが同時にきた話」

中学生区分 木村 涼梨（睦沢町立睦沢中学校3年） 「支え合うこと」

高校生区分 奥田 梨世（筑波大学附属聴覚特別支援学校高等部2年） 「ろう者と聴者の関わり」

一般区分 津嶋 栄子 「マサちゃんのこと」

優秀

中学生区分 吉原 有紗（鎌ヶ谷市立第二中学校3年） 「私の妹」

高校生区分 古畑 七奈（筑波大学附属聴覚特別支援学校高等部1年） 「私だからこそ、できること」

「障害者週間のポスター」

最優秀

小学生区分 大西 諒（習志野市立屋敷小学校3年） 「やさしい街」

中学生区分 小平 萌絵（習志野市立第五中学校2年） 「理解し支え合う」

優秀

小学生区分 木下 彩寧（習志野市立谷津南小学校5年） 「みんなで作るすてきな世界」

中学生区分 岩 沙夏（習志野市立第五中学校2年） 「僕にだってシュートは打てるんだ！」

○千葉県身体障害者福祉協会理事長賞

「心の輪を広げる体験作文」

小学生区分 河崎 賢太郎（習志野市立谷津南小学校1年） 「ダイアログインザダークにいて」

中学生区分 鈴木 柚奈（鎌ヶ谷市立第二中学校2年） 「感謝」

高校生区分 柳 敦心（筑波大学附属聴覚特別支援学校高等部1年） 「一人の人間」

一般区分 梶田 咲季 「当事者だからわかること」

「障害者週間のポスター」

小学生区分 真田 柊摩（筑波大学附属聴覚特別支援学校小学部3年） 「おどろきとうれしさ」

中学生区分 中濱 大樹（茂原市立本納中学校3年） 「やさしい世界を広げよう」

※入賞作品は千葉県のホームページでご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shoufuku/event/kokoronowa/r06kekka/r6kekka.html>（4ページに続く）

京葉喉友会

～声帯がなくても声は出せます！！～



京葉喉友会は（昭和48年創立）、千葉県から委託された発声訓練事業（発声講習会）を通じて喉頭がんや咽頭がんなどで声帯を失くされた方々が食道発声法や電気式人工喉頭発声法による「第二の声」を習得するお手伝いをしています。

また、当会は第二の声を習得された会員さんが社会活動へ積極的に参加するよう促進することも活動の目的としています。

【主な活動】

○講習会場：千葉市生涯学習センター

○練習日時：原則として毎週金曜日の午後1時から3時まで開講しますが、年末年始など特別な場合は休講となります。

○講習内容：日常生活における会話を可能とする発声力の習得を目的として概ね次の内容の講習を行っています。

- 1、食道発声法（シャント発声法を含む）による発声練習。
- 2、電気式人工喉頭発声法による発声練習。
- 3、その他、日常生活や社会生活を営む上で必要とされる種々の事項に関するお手伝いやアドバイス、また講習会は発声法により食道発声クラスと電気式人工喉頭発声クラスに分かれて行っており、食道発声クラスは、初級から始め熟達度に応じて中級、上級クラスへと昇級するシステムとなっています。食道発声、電気式人工喉頭発声のいずれについても、皆様と同じく声帯をなくした当会会員で発声法をマスターして訓練士の認定を受けた指導者が練習を、お手伝いします。

○発声法：食道発声は食道に強制的に吸い込んだ空気を吐く時に食道粘膜を振動させて原音を出し、口や舌の形や位置を変えて発声します。電気式人工喉頭発声は、電氣的に振動を起こす器械を喉に当てて原音を出し食道発声と同様に口や舌の形や位置を変えて発声します。



（令和6年12月20日、本年最後の講習会にて記念撮影）



（電気式人工喉頭発声の練習）



（食道発声・初級クラスの練習は指導者と1対1で行います。）

○入会方法：入会を希望される場合は、入会金として3,200円、年会費として3,000円の合計6,200円の費用が必要となります。

○年間行事の中には新年会を始め秋の懇親会などが行われます。

○連絡先：お問い合わせ等については、下記のメールアドレス宛てにご連絡下さい。

E-mail : ishibashi2413@vega.ocn.ne.jp

特定非営利活動法人

千葉県精神障害者家族会連合会

（略称 NPO 法人千葉家連）



当家族会連合会は、障害者に対する交通運賃割引制度の適用について、これまで三障害のうち精神のみ対象外であったため、昨年、国会議員に働きかけて委員会で差別的な状況の改善をお願いいたしました。しばらくして精神障害も他障害なみの改善を行う旨 JR と大手私鉄が発表し、私鉄から改善が始まり、JR は今年 4 月に当該割引制度が実現することになっています。

なお、京成電鉄と西鉄を除いて 100 km 以下の制限は残っており、この改善は今後の課題です。

最近の県のデータによると、県内には精神の通院医療費受給者数は約 11 万人、そのうち精神の保健福祉手帳所持者数は約 7 万人となっています。このほか未だ医療につなげていない当事者もおります。精神疾患は、13 年前に「がん」などの四大疾病に加わり五大疾病と呼ばれるようになったありふれた病気で、これらの方々や家族にとって交通運賃割引制度の適用は朗報です。

また、私たちは、同じ家族としての経験を活かし、個別に電話やメールによる相談に対応していますが、千葉県社会福祉センター事務室の活用を含め、今後の対応を見直したいと思っています。

更に、精神疾患の早期発見、早期治療は重要で、有効な働きかけについて、検討して行きたい。

これからも当事者・家族へのサポートを進めながら、他障害の関係者とも連携し、共生社会の推進に努めたいので、よろしくお願いいたします。

次に、昨年 12 月 10 日（火）、恒例の（令和 6 年度）千葉県障害者週間の集いを、千葉市民会館小ホールで開催しました。概要は次のとおり。

（1）講演会

演題 「心の病と共に自立した生活を送るために
～障害福祉サービス等による生活支援の制度と実際～」

講師 末永慎介氏 （社福）ワーナーホーム 鎌取相談支援センター、精神保健福祉士、主任相談支援専門員



（2）心の美術展（絵画部門、書道その他部門）

- ①絵画
- ②書道その他(写真、手工芸品など)



（3）事業所等自主製品展示会

菓子パンの展示即売等



※最優秀賞作品は、内閣府が実施する「心の輪を広げる障害者理解促進事業」に推薦され、木村涼梨さん、奥田梨世さん、津嶋栄子さんの作品が優秀賞を受賞されました。

中学生区分 優秀賞

「支え合うこと」

木村涼梨（睦沢町立睦沢中学校3年）

私は施設で暮らしています。この施設には障害をもった子もいます。その中の一人の女の子とは、八年間一緒に暮らしています。その子は四歳の時に入ってきました。四歳なのに立って歩くことも、しゃべることもできませんでした。

その子と出会ったとき私は正直なところ、怖いという印象をもちました。その子は、お風呂の時間になると、お風呂を嫌がって暴れたりしました。その度に、職員がその子につきっきりになります。その子は言葉が話せないで、その時の感情を叫んだり、自分の頭を思いっきり壁に打ち当てたりすることで、表現したのです。

私はなぜこのような行動をとるのか理解できませんでした。しかし、職員の方から「この子がお風呂に入るのを怖がるのは、自分の背丈よりも深いお風呂に入らされるからなの。溺れるんじゃないかって恐れているから。」この話を伺い、その子を怖いと思う先入観はこっぴどく打ち砕かれ恥ずかしい気持ちになりました。

このことから、私は障害をもった人に対して、たんにうわべだけで判断するのではなく、どうしてそういう行動をとるのかを考えなければいけないことを悟りました。

それから、三年ほど経ち、その子が年長になった頃です。その子はクレーン行動といって、職員の方の指などにつかまり、少しですが、歩くことができるようになっていました。夕方、私が宿題をやっていた時のことです。机の横から、その子はひょこっと顔を出してこちらを見ると、はじけたような笑顔。今でもはっきりと覚えています。今までは、その子をそれほど気にしたことはなかったのですが、可愛いと思い、その子のことをもっと知りたいと思うようになりました。ただ、その子は警戒心もあり、怖がらせてしまうとまずいと思い、まずは、その子と私の目線を合わせて挨拶をしました。次に一緒に何かをしようと思い、テレビで流れるダンスを踊ったり、天気の良い日には、屋外に出て田んぼの周りを散歩したりしました。こんなとき、その子はうれしそうに笑ってくれるのです。つい私の頬も緩んでしまいます。

こんなふう交流し始めると少しずつ、その子と私との関係が深くなるのを日に日に感じました。私はその子とのことで心に焼き付いている出来事があります。職員の方と私とその子で初めて買い物に行った時のことです。その子は「買い物に行くよ」というと、四足歩行で必死に私たちの所へ来て、即座に泣き叫んだのです。とても嬉しかったのだと思います。車に乗り込み、お店に到着すると、私の手の指にぶら下がり、私より前を歩き出したのです。そして、お店にいたお客さんや売り物をじっくりと見たり、かなり長い時間、笑顔ではしゃぎ回ったりしました。私の指はちぎれそうなくらい痛かったのですが、天使のようなあの笑顔を見ていると、それも忘れませんでした。

現在、私とその子は、職員の方からはハッピーセットと呼ばれています。二人三脚で支え合っているということだと思います。その子は今、自分の力で歩く訓練をしています。「頑張れ」私はその子を心の中でいつも応援しています。ただ、私もその子から笑顔や元気をいっぱいもらって寂しさを吹き飛ばしています。

「みんな違ってみんないい」は私が好きな金子みすゞさんの詩の中の言葉です。健常者の方は障害者の方に対して、「可哀想だな」とか「怖い」とか思わず、受け入れてほしいと思います。そのために、まずは、障害者のことを理解していくことが大切だと思います。障害をもった方の行動の一つ一つには必ず意味があるのですから。また、障害をもった方とふれあうには、同じ目線になることが大切だと思います。そして、一つのことを一緒に汗を流して取り組んでいくとよいと思います。私はこれらのことを行い、一人の人間としてその子と交流できるようになったからです。

出典：内閣府ホームページ (<https://www8.cao.go.jp/shougai/kou-kei/r06sakuhinshu/index.html>)

優秀賞を受賞された他の2名の方の作文もご覧いただけます。